

平成 26 年 5 月 26 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520434

研究課題名(和文) 説話の超域文化性に関する基礎的研究

研究課題名(英文) A New Approach to Buddhist Narrative Stories as Pan-East-Asian Culture

研究代表者

佐藤 利行 (Sato, Toshiyuki)

広島大学・文学研究科・教授

研究者番号：80178756

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円、(間接経費) 1,170,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、仏教説話を、個別的な地域の文化あるいは地域間の文化交流の資料として扱うのではなく、汎東アジア的な超域文化として捉え直す点に特色を有する。日本、中国、朝鮮、モンゴル、チベット、インドの各地域を研究領域とし、特にそれらの地域の言語を専門とする複数の研究者が、既存文献資料およびフィールド調査によって基礎資料の収集につとめた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research project is to reveal Buddhist narrative stories in a new perspective. For the purpose we had the cooperation with the colleagues whose study fields are Japan, China, Korea, Mongolia and India. We see Buddhist narrative stories as the pan-East-Asian culture.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：超域文化 東アジア 仏教説話 仏教教義 受容と伝播

1. 研究開始当初の背景

本研究の目的は、インドから中国・朝鮮・日本・チベット・モンゴル等東アジア全域に展開した仏教説話の各地における受容と伝播の様相を開明することにより、仏教説話を汎東アジア的な超域文化としてとらえなおす新たな視点を提供することであった。

仏教説話研究の資料は次の二つに大別しうる。

(甲)一切経(大蔵経)に収録されるいわゆる仏典中の説話

(乙)いわゆる仏典以外の文献にとりいれられた説話に大別できる。

(甲)については、漢訳仏典、パーリ語仏典、梵語仏典等を資料としてその伝播変遷の過程を追跡する研究がおこなわれており、今後とりあげるべき資料は未だ多数あるとはいえ、欧州の原典批判の手法を用いた研究方法がほぼ確立されているといつてよい。

一方で、(乙)に属す代表的な資料は我が国の『今昔物語集』である。そしてそこに収録される説話のいくつかの源泉資料が漢文仏典に求められることはよく知られている。このように、日本文化の一部をなす説話ならびに説話集が、アジアの諸文化から多大な影響を受けてきたことは明らかである。

しかし、なぜ『今昔物語』がこのように仏教説話を受け入れたのか、そこに至る伝播の過程はどうであったのか、また日本以外に同じ仏教説話を受入れた地域があるか、あるとすればどのようなかたちで受容したのか、というようなことについては従来の研究はあまり関心を向けてこなかったようである。このことは日本に関してのみならず、東アジア各地にみられる仏教説話研究についても同様であろう。また、日本や中国の仏教説話研究においては、複数の説話を比較してその異同を検討したり説話の構造を論じたりする研究は見られるものの、仏教説話によって仏典におけるいかなる教義を伝えようとしたのかという観点からの研究はほとんど無い状況であった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、インドから中国・朝鮮・日本・チベット・モンゴル等東アジア全域に展開した仏教説話の各地における受容と伝播の様相を開明することにより、仏教説話を汎東アジア的な超域文化としてとらえなおす新たな視点を提供することであった。

具体的には、各地域の仏教説話の内容分析、各地域への伝播と受容の様相の分析、そしてそれらを通して、その説話によってどのような仏教の教義が伝えられたのか、ということをも解明することを目指した。

なお、本研究は、将来的に「総合的研究」へと発展させていくことを企図した基礎的

研究であり、アジア文化圏の相互連関の歴史を仏教説話を通じて明らかにすることをより先の目標としたものである。

3. 研究の方法

本研究は、日本、中国、朝鮮、モンゴル、チベット、インドの一次資料を検討して、各文化域に存在する仏教説話を比較対照するという方法をとった。将来の「総合的研究」へと発展させていくために、平成23年度には各文化域の仏教説話について、文献およびフィールド調査を通じて、比較対照を進めていくうえでの基礎資料を作成した。続く平成24年度、25年度は、引き続き基礎資料を収集するとともに、収集された基礎資料を汎東アジアの視点から総合的に分析する研究を推進した。

本研究は、日本、中国、朝鮮、モンゴル、チベット、インドの各地域を研究領域とし特にそれらの地域の言語を専門とする複数の研究者が行う共同研究であるところに学術的特色がある。これまでの仏教説話研究は、各地域を専門とする研究者が各自の専門地域の資料を中心として遂行するのが通常であった。しかし、汎東アジア的な視点から仏教説話を取りあげようとするとき、各地域を専門とする研究者による資料発見と相互の議論が有効であり、それを通じて今後の仏教説話研究にあらたな視点を提供することが可能となる。

4. 研究成果

本研究は、仏教説話を、個別的な地域の文化あるいは地域間の文化交流の資料として扱うのではなく、汎東アジア的な超域文化として捉え直すことを提起する点に特徴を有している。これまでの仏教説話研究は、各地域を専門とする研究者が独自の専門地域の資料を中心としてその上流の資料との比較を行うのが通常であった。しかし、本研究は、東アジアにおいて地域の枠を超えてひろがる文化のひとつとして仏教説話を取り上げ、仏教説話を新たな視点から研究することを企図したものであった。日本、中国、朝鮮、モンゴル、チベット、インドの各地域を研究領域とし、特にそれらの地域の言語を専門とする複数の研究者が、既存文献資料およびフィールド調査による資料発見・収集・整理し、基礎資料の収集に努めた。また、資料発見と相互の議論を交えながら、共同研究して研究を行った。その結果、仏教説話は、各地域に応じて仏教の教義をふまえながら汎東アジア超域文化として捉え直されることが可能であることが明らかとなった。

本研究では、研究の成果報告書として、研究代表者、研究分担者及び研究協力者の個別研究の成果をおさめた『語言文化比較研究』

(Comparative Study of Language and Culture) (広島大学中国学プロジェクト研究センター) 第2号を2014年3月に刊行している。

なお、本研究の研究組織は対象とする東アジアの各地域に一名の専門の研究者を分担者として配していたが、今後はより多くの資料を取り上げるために、組織を拡大して研究を継続する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 14 件)

1. 佐藤利行、「菩薩セン子経」の漢語語彙、語言文化比較研究、第2号、査読有、2014、pp. 1-9
2. 佐藤利行、趙建紅 六朝漢語研究-圍繞《佛說菩薩目炎子經》、語言文化比較研究、第2号、査読有、2014、pp. 10-16
3. 河西英通、伝承と歴史学-平泉を例として-、語言文化比較研究、第2号、査読有、2014、pp. 43-50
4. 佐藤暢治、保安族の民話「大工と彼の妻」とその類話、語言文化比較研究、第2号、査読有、2014、pp. 58-66
5. 深見兼孝、『三国遺事』に見える菩薩名を冠した事物、語言文化比較研究、第2号、査読有、2014、pp. 68-72
6. 本田義央、亀の墜落説話の寓意、語言文化比較研究、第2号、査読有、2014、pp. 73-76
7. 佐藤利行、李均洋、日本の中国文学史研究及翻訳、全球化視野下の中国文学史観国際学術研究会論文集、査読有、2013、pp. 42-43
8. 佐藤利行、李均洋、日本楽府研究著述目録、第四屆楽府詩歌国際学術研究会論文集、上冊、査読有、2013、pp. 193-219
9. 佐藤利行、趙建紅 關於日本漢学研究、中国学論集、第49号、査読有、2012、pp. 62-76
10. 佐藤利行、王羲之の伝記研究-以隱士生活为中心-、伝記伝統与伝記現代化、2012、pp. 239-248
11. 佐藤利行、六朝漢語研究-佛說菩薩目炎子經の場合-、広島大学大学院文学研究科論集、第72号、査読無、2012、pp. 1-12
12. 佐藤利行、趙建紅 王羲之の書翰中的詞彙、

語言文化比較研究、第1号、査読有、2012、pp. 10-17

13. 本田義央、説話集編纂者の説話理解、比較論理学研究、第9号、査読有、2012、pp. 59-62

14. 佐藤利行、趙建紅 王羲之の書翰中的詞彙、Hiroshima Interdisciplinary Studies in the Humanities、第9号、査読無、2011、pp. 76-92

[学会発表](計 1 件)

1. 本田義央、仏教説話の伝播と受容、中日言語文化比較学会、2013年3月8日、広島大学

[図書](計 3 件)

1. 佐藤利行・木村守、菅茶山『黄葉夕陽村舎詩集』索引、白帝社、2013、790頁

2. 河西英通・伊原弘・市来津由彦・須江隆・ハリエツト・ズンドファー・山口智哉・柳立言・ピータ・ボル・徳橋曜、岩田書院、中国宋代の地域像、2013、pp. 345-369

3. 佐藤利行・李均洋、中国古典81部、首都師範大学出版社、2012、300頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 利行 (SATO, Toshiyuki)
広島大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：80178756

(2) 研究分担者

河西 英通 (KAWANISHI, Hidemichi)
広島大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：40177712

高永 茂 (TAKANAGA, Shigeru)
広島大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：10216674

深見 兼孝 (FUKAMI, Kanetaka)
広島大学・国際センター・准教授
研究者番号：20173312

佐藤 暢治 (SATO, Nobuharu)
広島大学・北京研究センター・教授
研究者番号：90263657

本田 義央 (HONDA, Yoshichika)

広島大学・国際センター・准教授
研究者番号： 80253037